

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第375回

ポール・ゴーギャン

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年11月21日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

I shut my eyes in order
to see.

私は、見るために目を閉じるのです。

ヴィジェーヌ・アンリ・ポール・ゴーギャンは、フランスのポスト印象派の画家。姓はフランス語の発音に近い「ゴーガン」とも表記され、近年の美術展覧会などではこちらを採用する例も多い。

Column

今回は思わず「深い！」と言ってしまいそうな言葉を紹介します。『目の前にあるものが全てではない』というアドバイスをいただいたことがあります。目だけではありませんね、言葉もそうだと思います。投げかけられた言葉の意味“だけ”を受け止めてしまうと『Aさん：なんでそんなこと言うの？ひどいよ！』『B：そんなつもりで言ったわけじゃないよ…』『A：そんなの絶対いいわけだよ…ひどいよ…』『B：私はAさんに寄り添って言っただけなのに…』と、すれ違いが生じることも少なくありません。“なぜそれがそこにあるのか”“なぜその言葉を発するに至ったのか”という経緯や思い、ねらいなどを読み取ることで本当の意味を受け止めることができるのだと思います。そうは言ってもそれぞれにそれぞれの感情があります。すでに自分のほしい答えが決まっていて、それ欲しさに相談を持ちかけることもあります。期待していた答えと違った時に『この人は冷たい。わかってくれてない…』などと感じてしまうこともあります。今回の言葉の“目を閉じる”は、もしかして“一旦立ち止まって考える”という意味も含まれているかもしれませんね。

朝晩は冷え込みが強くなってきて、いよいよ冬がやってくるなという感じがします。受験シーズンであり、部活動ではシーズン大詰めという多くの人が“余裕”を失っている時期です。こんな時だからこそ今回の言葉を皆さんに届けたいと思い、この言葉を選びました。苦しくなると『なんで自分ばかり』と落ち込んだり腹を立てたりしてしまうことがあります。そういった感情に襲われる時のほとんどが、自分がやらなければ何も進まない時です。どれだけ助けてあげたくても仲間や家族にはどうすることもできない時です。そんな難しいことがなぜ自分のみに降りかかるのか。それは“あなただからできること”だからです！なぜ自分にこの難題が課せられたのか、なぜ向き合わなくてはいけないのか。自分という可能性や使命など、壮大ではありますが目を閉じてイメージしてみてください。正智深谷高校のみなさんならきっと見えてくるはずですよ！